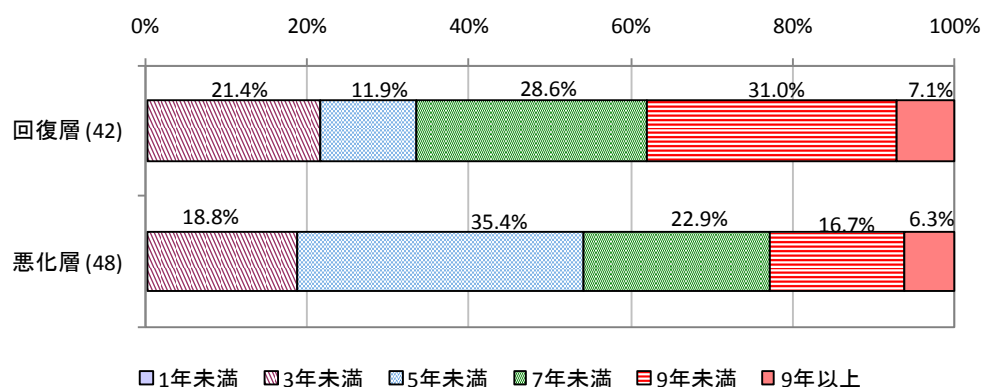


3-3-3 回復傾向別の被害の内容

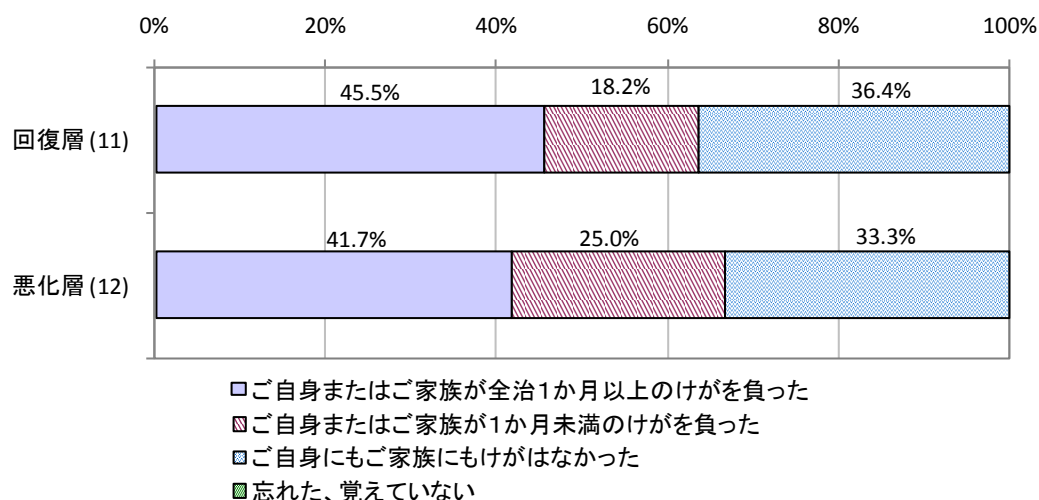
回復傾向別に被害の内容をみると、被害に遭ってからの経過年数（平成19年度調査時）では、「3年未満」までは差がみられないものの、「5年未満」では悪化層の割合が高くなっている。「7年未満」、「9年未満」では、回復層で割合が高く、事件後3～5年の間に悪化傾向に陥る傾向が推測される（図表3-55）。

「事件によって1か月以上のけがを負ったか」という質問で、回復層と悪化層を比較すると、けがの程度による差は見られない（図表3-56）ものの、治療状況は、回復層で「治療を受け、治療が終了した」割合が60%、悪化層では20%と差がみられる（図表3-57）。また、後遺症の有無では、「後遺障害等級の認定がなされた後遺障害がある」が回復層では40%である一方で、悪化層は75%と高い割合にある（図表3-58）。

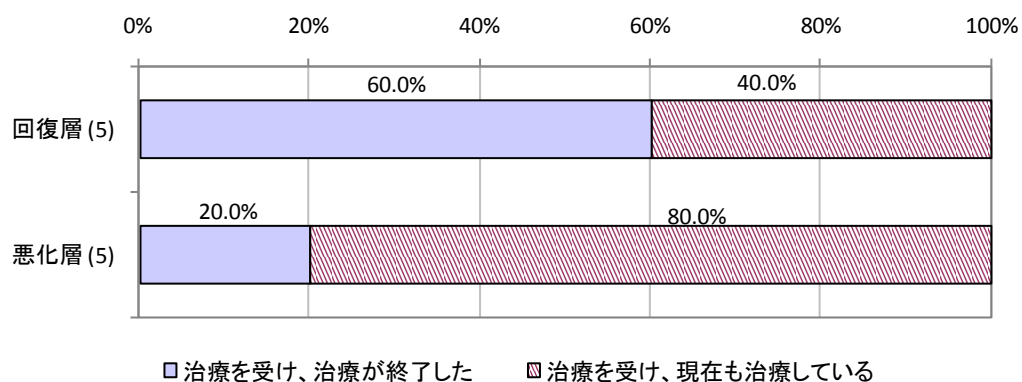
図表 3-55 回復傾向別、被害にあつてからの経過年数（平成19年度調査時点）



図表 3-56 回復傾向別、事件によって1か月以上のけがを負ったか（平成19年度調査時点）



図表 3-57 回復傾向別、治療状況（平成19年度調査時点）



図表 3-58 回復傾向別、後遺症の有無（平成19年度調査時点）

